

郷土摂津 いにしえ通信

第96号



平成18年4月1日

発行 摂津市教育委員会
生涯学習部 生涯学習スポーツ課
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1
(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007
ホームページアドレス
<http://www.city.settsu.osaka.jp/>



ふるさとの川「淀川」

～川は流れる悠久の歴史の中で～

人類が出現する以前の原始・古代・
中近世から現代まで時代別に淀川
と摂津市の関わりに迫ります。

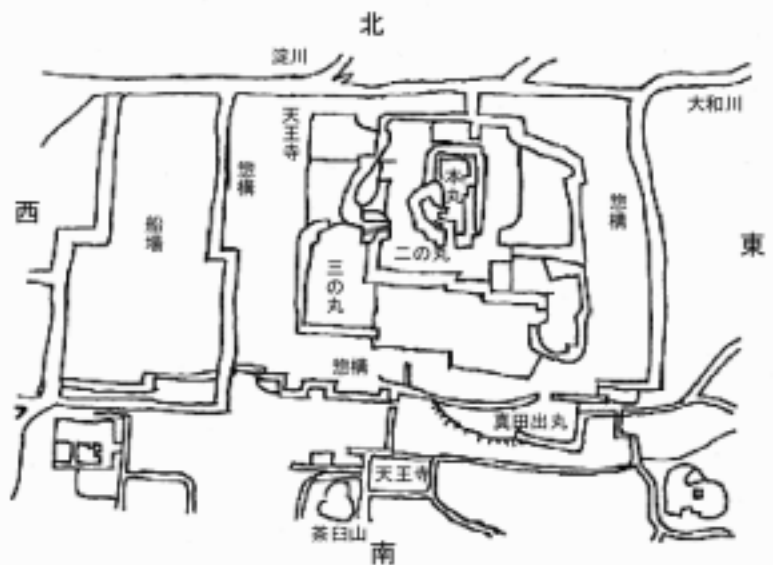
第13回

冬の陣と淀川 慶長19年(1614)10月1日片桐且元・貞隆が茨木へ退去したその日、駿府の徳川家康は、ついに大坂征討の命を發しました。京都所司代板倉伊賀守勝重から、片桐退城・開戦必至の待ちに待った注進が、この日に届いたからです。ついで11日に家康は駿府を、23日に將軍秀忠は江戸を進發しました。

大坂方でも、軍議は籠城と決し、その準備は着々と進められました。大坂城は秀吉自慢の難攻不落の名城です。攻城戦より野戦を得意とする家康を迎え撃つには、籠城を有利と考えたのです。しかも、これを補強するため突貫工事で、城の最外郭およそ三里半(約14km)にわたって防御設備を設けました。これが惣堀とか惣構と呼ばれたものです。浪人たちも新規に召し抱えました。関ヶ原の戦い以来主家を失った浪人が多数集まり、10万を越える大軍が編成されました。もちろん、金銀を散じて米や武器も籠城に充分なほど買い込まれました。

家康は10月23日に、京に着いて二条城に入りました。その翌日、片桐且元は藤堂高虎とともに家康に召されて、諸方攻め口などを説明しました。25日、この両名は、大坂城攻撃の先鋒を命じられています。11月10日、秀忠が伏見城に着きました。17日、家康は住吉に、秀忠は平野へ陣を移し、翌18日、共に茶臼山にのぼって大阪城の形勢を觀望し、おもむろに攻撃にとりかかりました。11月のなかばには、天下の諸大名を集めた20万の大軍で、大坂城の包囲体制をつくりあげていたのです。

摂津市域周辺では、11月はじめに、丹波国福知山の有馬豊氏が吹田に陣を構え、相備衆として丹波国篠山の松平康重、丹波国龜山(龜岡市)の岡部長盛、伯耆国矢橋の市橋長勝が配され(『米府年表』)、片桐兄弟・石川貞政・宮城豊成などが一津屋・別府に陣取って大坂をうかがいました(『本光国師日記』)。その後、松平康重の軍勢は別府に陣を移したとみられますが、『譜牒余録』では、「周防守(松平康重) 別府に陣取候処、川を隔、堤に向ひ、敵方之浜小屋を構、弓銃炮をそろへ、張番を置候、周防守一番に川を越、家来都筑助大夫敵之小屋を焼払、番之者を討捕之、又八追払候、其以後諸勢別府之川を渡し候」と伝えています。松平・岡部・市橋らの軍勢は、こうして中嶋(大阪市東淀川区)へ進出したのです。(裏面へつづく)



大坂冬の陣時代の大阪城

いずれにしても、神崎川周辺に大坂方の最前線があったものと思われます。

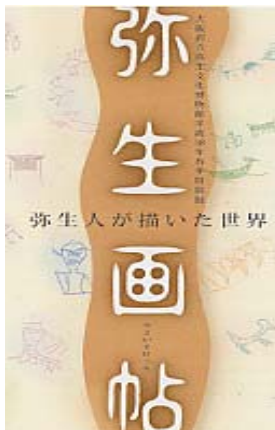
冬の陣では両軍ともに、淀川の流水に着目しています。大坂方では、出口村（枚方市）の堤を掘って淀川の水をたたえ、枚方の通路を絶っています。これは10月29日に、家康が伊奈忠政らに修築させました。さらに11月7日には大坂方が狭田宮（佐田宮、守口市）の堤を奪いに出て、撃退されています。堤を切って大水を流し、大坂城東北方からの攻撃を妨げようとしたのです。しかし、これらよりも、家康の大構想のほうが注目されます。

家康は二条城にいた11月11日に、はやくも松平忠利と伊奈忠政に、鳥養付近の堤を崩して淀川の流水を神崎川に落とし、淀川を涸渇すべきことを命じています。さらに19日には、家康は住吉の陣所に秀忠および本多正純らを集めて攻戦の方略を議した結果、鳥養付近の堤を壊すだけでなく、淀川本流をもせき止めて、城濠を涸らし、そのうえで天満口・船場口・天王寺口、四方から一斉に攻撃を開始すべしと決定しました。これに要する土俵20万俵の調達は、さっそく摂津・河内両国に命じられました。

『江家家譜』には11月23日に毛利・吉川両氏が江口の築堤を命じられたとの記載があります。また、『慶長見聞書』には、福島忠勝が江口のふたまた、つまり神崎川の分岐点で、大坂へ流れている本流の方をせき止めたという記事がありますが、同時に命じられて着手した築堤かもしれません。いずれにしても、淀川本流せき止め工事の1つとして江口でも築堤が企てられたと思われます。

冬の陣においては淀川が重視されましたが、結局、最も被害を被ったのは淀川沿岸の住民でした。とくに鳥飼地域では、堤が切られた場合には水没の運命にあり、そのうえ築堤工事にも労役を強いられることになり、住民にとっては豊臣氏の帰趨よりも自分の生命と生活の安全が問題であったことでしょう。（摂津市史より）

平成18年度春季特別展のごあんない



彌生画帖 彌生人が描いた世界

平成18年4月22日（土）～7月2日（日）

大阪府立弥生文化博物館

大阪府和泉市池上町443 0725-46-2162

開館時間 午前9時30分から午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日

交通 JR阪和線「信太山」駅下車西へ600m

南海本線「松ノ浜」駅下車南東へ1,500m

古代の工房 豊かなる都・寺のきらめき

平成18年4月29日（土）～7月2日（日）

大阪府立近つ飛鳥博物館

大阪府南河内郡河南町大字東山299番地

0721-93-8321

開館時間 午前10時から午後5時（入館は4時30分まで）

休館日 毎週月曜日

交通 近鉄長野線喜志駅下車金剛バス阪南ネオポリス行き終点下車

